

有機農業に関する栽培マニュアル

令和3年4月

愛媛県

まえがき

愛媛県では、環境保全型農業の推進に資することを目的に国による「有機農業の推進に関する法律」（平成18年法律第112号）の施行及び「有機農業の推進に関する基本的な方針」（平成19年4月27日付生産局長通知）の公表を受け、愛媛県有機農業推進計画（以下「県推進計画」という。）を平成20年3月に策定（令和3年3月改正）し、県内の有機農業の普及・推進を図っているところです。

この県推進計画では、重点目標の一つに「有機農業に関する技術の体系化」を掲げており、平成20年3月の県推進計画の策定時に併せて、それまでの県内での試験・実証事例や農業者の栽培事例の紹介を中心とした「（暫定版）有機農業に関する栽培マニュアル」を作成しました。

そのマニュアルは暫定版であり、新たな実証結果等を踏まえて随時改訂を行うこととしており、平成23年度及び平成28年度に改訂を行いました。今回、それ以降に取り組みされた県内での試験・実証事例や調査事例を追加し、栽培技術の普及や取組のヒント等に活用して頂くため、改訂を行いました。

本マニュアルが、これまで以上に有機農業を実践されている皆様の参考となるだけでなく、有機農業に取り組みようと考えている方々や関心をお持ちの方々を後押しする一助となれば幸いです。なお、本マニュアルは、今後の試験・実証や調査等の結果を踏まえて、より現場に即した使いやすいマニュアルになるよう随時改訂し、内容を充実させて参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、本マニュアルの改訂に当たり、ご協力をいただきました試験研究機関、普及拠点等の関係各位に謝意を表しますとともに、今後とも有機農業の普及・推進に格段のご協力をお願い申し上げます。

令和3年4月

愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課長

目次

| | | |
|-----|---|-----|
| 1 | 土づくり関係 | |
| 1) | 家畜ふん堆肥 | 1 |
| 2) | 緑肥 | 12 |
| 3) | その他の肥料 | 14 |
| 4) | ぼかし肥料 | 18 |
| 5) | 有機質肥料の特徴 | 19 |
| 6) | 果樹の土づくり | 22 |
| 7) | 米の土づくり | 26 |
| 8) | 野菜の土づくり | 28 |
| 2 | 防除関係 | |
| 1) | 農家でもできる病害虫の発生調査 | 30 |
| 2) | アイガモ放飼による水田雑草防除 | 41 |
| 3) | 米ぬかを利用した水田雑草防除 | 43 |
| 4) | 落ち綿マルチ雑草防除 | 45 |
| 5) | フェロモン剤を用いた害虫防除 | 48 |
| 3 | 研究成果 | |
| 1) | フェロモン剤による害虫防除 | 54 |
| 2) | 柑橘のバイオリサカミキリ | 56 |
| 3) | 防蛾灯によるナシの夜蛾防除対策 | 58 |
| 4) | 無農薬による冬春トマト栽培試験 | 60 |
| 5) | 無化学肥料による露地キャベツ及びレタス栽培 | 62 |
| 6) | 水稻—タマネギ体系での大規模有機水稻栽培の実証 | 63 |
| 7) | 天敵を利用したいちご害虫総合管理技術 | 65 |
| 8) | 有機農業による水稻・野菜の栽培 | 69 |
| 9) | 有機栽培かんきつ園における天敵相 | 101 |
| 10) | 市販キットを用いた病害の簡易検定 | 103 |
| 11) | 夏秋トマトやイチゴでの天敵の利用 | 106 |
| 12) | 指標生物による農業に有用な生物多様性の評価 | 108 |
| 4 | 実証結果 | |
| 1) | ハウスレモンにおける天敵導入による化学農薬低減技術の実証 | 109 |
| 2) | 有機 JAS 農薬及び耕種を組み合わせた有機栽培技術の確立 | 114 |
| 3) | BT 剤によるスイートコーンのアワノメイガ防除効果 | 117 |
| 4) | 夏秋トマトの有機栽培実証 | 119 |
| 5) | BT 剤によるサトイモのハスモンヨトウ幼虫防除効果の実証 | 121 |
| 6) | ショウガにおける有機栽培の実証 | 123 |
| 7) | ゆずの有機栽培における微生物農薬のゴマダラカミキリ防除効果の実証 | 125 |
| 8) | コロマイト水和剤の散布回数の違いがゆずのミカンサビダニに 対する防除効果に与える影響 | 127 |
| 5 | 有機農業に関する実態調査 | |
| 1) | 県内における有機農業の取組事例 | 129 |
| 2) | 有機農業に関するアンケート | 134 |